

図書館教育研究部会

I 研究テーマ 『本好きな子どもを育てるための実践的研究』

II 研究テーマ設定の理由

読書は、子どもたちにとって想像力や思考力を身に付け、人としてよりよく生きる力を育み、人生をより深い豊かなものとしていくために欠くことができないものである。同時に、すべての学習の基本である「ことばの力」を育てる上で大きな力を発揮するものであり、基礎学力の基盤をなすものでもある。

一方、テレビ・ビデオ・インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されている。

図書館は、子どもの読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っている。学習指導要領においても、児童生徒の発達段階に応じ、「楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことや「読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」ことなどが目標とされている。

そこで、図書館教育部会では、児童生徒の望ましい読書習慣の形成を図り、日常生活において読書活動が活発に行われることを願い、上記の研究テーマを設定した。5つのグループ（1ブックトーク 2パネルシアター 3アニメーション 4読み聞かせ 5読書指導）においてそれぞれ研究を進めた。

III 研究の経過と内容

4月10日	全体会	今年度の部会運営	役員・テーマ等について
5月15日	全体会	研究の方向性	グループごとの研究内容・年間計画について
6月17日	第1回グループ研究会		
8月7日	第2回グループ研究会	夏季全体集会	
8月20日	第3回グループ研究会		
9月4日	第4回グループ研究会		
10月2日	第5回グループ研究会		
11月4日	第6回グループ研究会		
1月27日	全体会	各グループの研究経過及び実践内容の報告	研究のまとめ

1 ブックトークグループ（班員 15名）

・学習指導に役立つブックトークの実践

2 パネルシアターグループ（班員 24名）

・本好きな子どもを育てるための実践的研究 ～パネルシアターの実践を通して～

A班「にんじんとごぼうとだいこん」 日本民話 和歌山静子：絵

B班「きりかぶ」 なかやみわ：作

C班「ゆうひのしずく」 あまんきみこ：文 しのとおすみこ：絵

3 アニマシオングループ（班員 13名）

- ・アニマシオンを通して本好きな子どもを育てるための実践的研究

低学年：作戦名『そのカード だれのこと？』利用した本『どうぶつのからだ①～⑥』

高学年：作戦名『そのカード だれのこと？』利用した本『どうぶつのからだ①～⑥』

4 読み聞かせグループ（班員 10名）

- ・本の魅力を伝えるための読み聞かせの研究

～並行読書に関心を持たせるための読み聞かせの実践～

5 読書指導グループ（班員 23名）

- ・本好きな子どもを育てるための実践的研究

～「リテラチャー・サークル」と「ビブリオバトル」の実践～

IV 研究の反省と課題

1 グループごとの反省と課題

(1) ブックトークグループ

- ・学習に役立つ本を中心に紹介したので、発展教材になり、学習内容が深まった。
- ・シリーズの本の一冊を紹介すると他の本も読みたくなり、読書のきっかけとなった。
- ・季節や身近な生活に合った内容の本を紹介すると、より興味や関心を引くことができ、読書の幅を広げることができた。
- ・時間があまりとれないときは、あらすじなどで2、3冊の本を紹介するミニブックトークが有効であった。
- ・紹介する本はできるだけ学校にある本を選んだり、司書の先生と連携して公立図書館の学校貸し出しを利用したりして、子どもたちがすぐに手に取ることができる環境を作っていくたい。

(2) パネルシアターグループ

- ・昔話やシリーズで出ている本はひとつ紹介すると他の本も手に取るきっかけとなる。
- ・読書への喚起だけでなく、道徳の授業にも使える作品となった。
- ・パネルシアターをきっかけにして、子どもたちが楽しんで本の世界に入っていた。
- ・場面の展開がはやい作品は、ことばと場面があわなくなる場合があるので、演じ方の工夫でカバーしていく必要がある。
- ・BGMがあるとお話をテンポよく、スムーズに進めることができる。本の内容に合った曲を選ぶようにしたい。
- ・本好きな子どもを育てることにつながることを忘れずに取り組んでいきたい。

(3) アニマシオングループ

- ・今年度は低学年ブロックと高学年ブロックに分かれ、低学年も高学年も同じ本を使って、同じ作戦で、それぞれ活動の流れを考えた。

- ・低学年の実践では、導入の絵本の読み聞かせから集中して本の世界の入り込むことができた。ゲームを通して動物の本に親しむことができた。答えの数を増やして、4～5人のグループで取り組めるようにしたい。
- ・高学年の実践では、各班に写真を配布したので細かいところまで見て、何の動物か考えることができた。どの子も集中して楽しく参加することができた。問題の出し方のパターンが決まっていたので、活動が単調になってしまった。

(4) 読み聞かせグループ

- ・並行読書をきっかけとする読み聞かせが、新しい実践だった。
- ・今年度は1つのクラスを対象に数回の読み聞かせを行う実践を見せていただけた。その中から、子どもたちの聞く姿勢や本に対する興味の深まりなどの成長を目の当たりにすることができ、大変勉強になった。
- ・本を紹介したり、読み聞かせを行ったりすることは子どもを本好きにさせるためのよい手段であると改めて実感した。導入や読み聞かせ中に音楽を入れることは、特に効果的だということが分かった。選本も一人では難しいこともあるが、グループで意見を出し合ったりたくさんの方の目を探したりすることで、並行読書として適した本を選ぶことができた。

(5) 読書指導グループ

- ・昨年度は「リテラチャー・サークル」と「ビブリオバトル」について研究し、今年度はそれを受けて委員会や授業等で実践してみることにした。
- ・新しいことに取り組むことによって、図書館教育に求められていることや子どもたちにつけたい力を、少しだが考えることができたと思う。また、司書の先生と一緒に研究なので、連携を考えることもできた。
- ・「リテラチャー・サークル」や「ビブリオバトル」を部員全員が自分の学校で行うことはできなかった。「ビブリオバトル」は時間を短くして実践した学校もあった。
- ・1年生の国語の教科書にある「おいしい読書」との関連でポップ作りをしている学校が多く、それを活用して、来年度は3～4人のグループで「読書ボード」を作成してみてもどうかという意見が出された。

2 まとめ

「本好きな子どもを育てるための実践的研究」というテーマのもとに、5つのグループが創意工夫を生かした取り組みを行った。各グループごとに手法はそれぞれ異なっていたが、子どもたちに「本を好きになってほしい」「読書の楽しさを感じてほしい」「読みたいと思う本に出会わせたい」という願いをもっていることは共通している。これからも実践を続け、本好きな子どもを育てていきたい。子どもたちが本に親しみ、本の世界を楽しんでほしいと思う。また平成26年8月には山梨県において初めて第39回全国学校図書館研究大会甲府大会が開催され、全国の先生方の実践にふれることができ、大変有意義であったことも報告しておきたい。